

2020年7月実施
第13回
農業簿記検定[®]
2級 問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。
・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー
・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 スマートフォン等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。
- 5 上掲4の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、**2時間（120分）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、**問題25問まで掲載**しており、**1頁から21頁まで印刷**しています。
試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退室可能時間は、試験開始後30分後から試験終了10分前です。
※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“農業簿記検定[®]”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

問題 1 製造原価の分類について、以下の文章のうち、誤っている文章が一つある。その文章の選択肢を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 製造原価は、その発生形態により、材料費、労務費、経費に分類される。
2. 製造原価を製品および仕掛品、育成仮勘定との関連において分類する場合、原価要素は製造直接費と製造間接費に分類される。
3. 製造原価を製品および仕掛品、育成仮勘定との関連において分類する場合の製造直接費は、直接材料費、直接労務費および直接加工費に分類される。
4. 製造原価は、生産規模との関連において、固定費と変動費に分類される。
5. 農業簿記においては、製造原価を生産規模との関連において分類する場合、売上高ではなく、作付面積や飼養頭羽数などの生産規模を基準として分類する。

問題 2 当社では、継続記録法により材料の実際消費量を計算しており、毎月末に实地棚卸を行っている。以下の【資料】に基づいて、当月の①実際消費価格を用いた場合の材料費、②予定消費価格（@3,200円）を用いた場合の材料消費価格差異、③月末材料有高について正しい組み合わせの選択肢を一つ選びなさい。

[資料]

1. 材料の消費量は継続記録法、実際消費単価の計算は先入先出法によっている。
2. 当月の材料の入出庫に関する資料は以下の通りである。
 - 4月5日 肥料 20 kg（@2,200円）を購入した。
 - 4月10日 肥料 30 kg（@3,600円）を購入した。
 - 4月16日 肥料 35 kgを消費した。
 - 4月21日 肥料 35 kg（@3,700円）を購入した。
 - 4月28日 肥料 40 kgを消費した。
3. なお、前月繰越は、@3,200円、10 kgであり、当月末の实地棚卸高の結果、棚卸減耗は存在しなかった。

【選択肢】

	①	②	③
1	247,500円	7,500円（貸方差異）	66,000円
2	247,500円	7,500円（借方差異）	66,000円
3	239,500円	500円（貸方差異）	66,000円
4	239,500円	500円（借方差異）	74,000円
5	239,500円	500円（貸方差異）	74,000円

問題 3 以下の資料に基づき、各経費の当月消費額の合計額として正しい選択肢を一つ選びなさい。

費目	内訳					
作業委託費	前月末未払額	45,000円	当月支払額	130,000円	当月末未払額	53,000円
賃借料	前月末前払額	23,000円	当月支払額	79,000円	当月末前払額	27,000円
減価償却費	年間見積額	300,000円				
動力光熱費	当月支払額	21,100円	当月測定額	19,900円		
事務用消耗品費	月初棚卸高	12,000円	当期購入高	23,500円	当月末棚卸高	14,200円

【選択肢】

1. 279,200円
2. 263,200円
3. 280,300円
4. 264,300円
5. 288,300円

問題 4 当社は、製造間接費について、公式法変動予算を採用している。以下の【資料】に基づいて、当月の製造間接費の①総差異、②予算差異、③稼働差異を計算し、それぞれの値の正しい組み合わせの選択肢を一つ選びなさい。

【資料】

1. 月間の計画作業面積 15,000 m²
2. 月間の製造間接費公式変動予算
 月間固定費 2,400,000円
 変動費率 @150円
3. 当月の実際作業面積 14,700 m²
4. 当月の製造間接費実際発生額 4,590,200円

【選択肢】

	①	②	③
1	93,000円 (貸方差異)	45,000円 (貸方差異)	48,000円 (貸方差異)
2	93,000円 (借方差異)	45,000円 (借方差異)	48,000円 (借方差異)
3	33,200円 (借方差異)	48,000円 (借方差異)	14,800円 (貸方差異)
4	33,200円 (貸方差異)	14,800円 (借方差異)	48,000円 (貸方差異)
5	33,200円 (借方差異)	14,800円 (貸方差異)	48,000円 (借方差異)

問題 5

当社は、肉用牛の肥育を行っている。以下の【資料】に基づいて、当期における期末仕掛品原価、完成品総合原価を計算する場合において、①当期の総飼育日数、②当期の一頭当たり 1 日の加工費、③期末仕掛品原価の加工費の正しい組み合わせの選択肢を一つ選びなさい。

【資料】

1. 生産データ

期首仕掛品	200 頭
当期投入	<u>1,000 頭</u>
計	1,200 頭
正常仕損	50 頭
期末仕掛品	<u>100 頭</u>
完成品	<u>1,050 頭</u>

2. 原価データ (単位:円)

期首仕掛品原価	
素畜費	300,000
加工費	1,386,000
当期製造費用	
素畜費	1,520,000
加工費	7,857,000

3. その他の資料

- (1) 1 頭を完成させるために要する飼育日数は、180 日である。期首仕掛品となった肥育牛は 126 日の飼育日数が経過していた。また、期末仕掛品となった肥育牛は 108 日の飼育日数が経過していた。期末仕掛品となった肥育牛の正常仕損費負担前の素畜費は 152,000 円であった。
- (2) 素畜は始点で投入される。
- (3) 正常仕損は必要不可避の死廃によって生じるものである。正常仕損の処理は正常仕損度外視法によっている。正常仕損になった肥育牛は飼育開始時点で発生するため、完成品と期末仕掛品の両方で負担する。
- (4) 期末仕掛品の評価方法は、先入先出法によっている。
- (5) 計算結果に端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。

【選択肢】

	①	②	③
1	174,600 日	@45 円/日	421,200 円
2	199,800 日	@45 円/日	421,200 円
3	174,600 日	@39 円/日	486,000 円
4	174,600 日	@45 円/日	486,000 円
5	199,800 日	@39 円/日	421,200 円

問題 6 次の〔資料〕に基づいて各仕訳の(①)～(⑤)に入る勘定科目及び金額を計算し、下記の〔語群〕から正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

- A. 前期育成仮勘定残高は 540,000 円であった。
- B. 当期の繁殖牛育成に要した飼料費は 210,000 円であり、後日支払うこととした。
- C. 従来から育成を行っていた繁殖牛が成熟期を迎え繁殖活動を行った。(期首育成仮勘定残高 360,000 円、当期の育成費用 95,000 円)
- D. 決算につき、当期の育成中の牛馬の育成費用は、総額で 320,000 円であった。(C. の育成費用を除く。)
- E. 決算につき、減価償却費 320,000 円を計上した。なお、記帳方法は直接法による。

〔勘定〕 (単位：円)

育成仮勘定			
A. 期首繰越高	540,000	C. 生物	(①)
D. (②)	320,000	期末繰越高	(③)
	860,000		860,000
	860,000		860,000

生物			
期首繰越高	1,150,000	E. 減価償却費	320,000
C. 育成仮勘定	(①)	期末繰越高	(⑤)
C. (②)	(④)		(⑤)
	(④)		(⑤)
	(④)		(⑤)

〔語群〕
 ア 1,605,000 イ 1,285,000 ウ 500,000 エ 455,000
 オ 405,000 カ 360,000 キ 95,000 ク 210,000
 ケ 仕掛品 コ 育成仮勘定 サ 育成費振替高 シ 飼料費

【選択肢】

- 1. ① カ ② サ ③ オ ④ ク ⑤ イ
- 2. ① カ ② サ ③ ウ ④ キ ⑤ イ
- 3. ① エ ② ケ ③ ウ ④ ク ⑤ ア
- 4. ① エ ② シ ③ オ ④ キ ⑤ イ
- 5. ① カ ② ケ ③ ウ ④ キ ⑤ イ

問題 7

当農場はレタスを 10 a 作付しており、5,000 玉のレタスが収穫される予定である。生産指示書（標準原価カード）と実際発生額は以下の通りであった。レタス 1 玉当たりの標準原価、直接材料費の数量差異、直接労務費の賃率差異・作業時間差異を算定し、その正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。なお、原価差異の算定にあたり不利差異の場合には「不利」、有利差異の場合には「有利」と記載している。

〔生産指示書（標準原価カード）（5,000 玉）〕

直接材料費

種苗費	300 円／袋	×	250 袋	=	75,000 円
肥料費	500 円／袋	×	120 袋	=	60,000 円
農薬費	400 円／kg	×	50 kg	=	20,000 円
直接労務費	900 円／h	×	70 h (直接作業時間)	=	63,000 円
製造間接費	1,150 円／h	×	70 h (直接作業時間)	=	80,500 円
合計					<u>298,500 円</u>

〔実際発生額に関する資料〕

直接材料費

種苗費	300 円／袋	×	225 袋	=	67,500 円
肥料費	500 円／袋	×	115 袋	=	57,500 円
農薬費	400 円／kg	×	59.5kg	=	23,800 円
直接労務費	930 円／h	×	72 h (直接作業時間)	=	66,960 円
製造間接費					<u>79,000 円</u>
合計					<u>294,760 円</u>

【選択肢】

	レタス 1 玉当たりの 標準原価	数量差異	賃率差異	作業時間差異
1	59.70 円／玉	6,200 円 (有利)	2,160 円 (不利)	1,800 円 (有利)
2	59.70 円／玉	6,200 円 (不利)	2,160 円 (有利)	1,800 円 (有利)
3	59.70 円／玉	6,200 円 (有利)	2,160 円 (不利)	1,800 円 (不利)
4	58.95 円／玉	6,200 円 (不利)	2,160 円 (有利)	1,800 円 (不利)
5	59.70 円／玉	6,200 円 (不利)	2,160 円 (不利)	1,800 円 (有利)

問題 8

当社は稲作を行う農企業であり、生産規模（作付面積）は最大で 250a である。次の【資料】から、当社の①損益分岐点となる変動益（売上高）、②損益分岐点の作付面積を求めなさい。また、③希望営業利益を 600,000 円とした場合の希望営業利益達成変動益（売上高）も求め、①～③の正しい組み合わせの選択肢を一つ選びなさい。

【資料】

1. 1 a の農地から 60 kg のコメが生産される。
2. 変動益単価 : 12,000 円/a (60 kg)
3. 変動費単価 : 3,000 円/a (60 kg)
4. 固定費 : 1,800,000 円

【選択肢】

	①	②	③
1	2,400,000 円	200a	3,200,000 円
2	1,800,000 円	150a	2,400,000 円
3	2,400,000 円	200a	3,000,000 円
4	2,100,000 円	175a	3,200,000 円
5	2,100,000 円	200a	3,100,000 円

問題 9

次のア～カの文章には、誤っているものが二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す選択肢の番号を一つ選びなさい。

- ア. 損益分岐分析とは、原価と生産規模と利益の関係を分析する一方法であり、経営管理者が短期利益計画を策定する際、有用な情報を提供することができる。
- イ. 短期利益計画に役立つ情報を得るためには、総原価を変動費と固定費に分け、変動益（売上高）からまず固定費を差引いて変動益（売上高）に比例する限界利益（貢献利益）を計算する。
- ウ. 損益分岐点の変動益（売上高）は、固定費を限界利益率で除することで算出される。
- エ. 原価分解（固変分解）を行う際は、通常は想定しえないような異常な状態の資料も用いて計算を行う必要がある。
- オ. 直接原価計算とは、原価要素を変動費と固定費とに分類し、変動費のみを製品原価とする原価計算をいう。
- カ. 直接原価計算方式による損益計算書は、全部原価計算方式の営業利益が記載されていないため、制度上公開財務諸表としては認められない。

【選択肢】

- 1. ア エ
- 2. ア カ
- 3. イ エ
- 4. イ オ
- 5. ウ オ

問題 10 伝票会計に関する次のA～Eの記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

- A. 伝票には、すべての取引が記入されるため、取引発生順に綴じ込むことにより仕訳帳にもなる。よって、伝票会計を採用している場合には、別途仕訳帳を作成しなくてよい。
- B. 入金伝票は、現金の収入があったときに記入するものであり、仕訳上の貸方科目は現金が前提となっている。
- C. 出金伝票に記載された取引を勘定口座に転記するとき、現金勘定の貸方へ転記し、科目欄に記入された勘定の借方へ転記する。
- D. 買掛金を現金で支払った場合に記入する伝票は、出金伝票である。
- E. 振替伝票は、現金の入金取引及び出金取引以外の取引があった場合に記入するもので、仕訳上の借方科目または貸方科目のいずれかが現金である。

【選択肢】

1. A, B 2. A, D 3. B, C 4. B, E 5. C, E

問題 11 次の一連の取引に基づき、12月31日における建物の帳簿価額として、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

- (1) 1月15日に農業用倉庫の建設を依頼し、契約代金8,000,000円の一部2,500,000円を手付金として、普通預金から振り込みして支払った。
- (2) 10月1日に上記農業用倉庫が完成し、引き渡しを受け、同日に使用を開始した。なお、残金は同日に普通預金から振り込みして支払った。
- (3) 12月31日、決算につき上記農業用倉庫を定額法（耐用年数17年、償却率0.059）により減価償却を行った。

【選択肢】

- 1. 7,528,000
- 2. 7,764,000
- 3. 7,822,000
- 4. 7,882,000
- 5. 7,888,200

問題 12

有形固定資産に関する次のア～オの記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

- ア 平成 24 年 4 月 1 日以後取得した減価償却資産に適用される定率法の償却率は、定額法の償却率を 2 倍した償却率（200%定率法）である。
- イ 有形固定資産の建設を依頼し、手付金などを支払った場合には「建設仮勘定」の貸方に記帳しておく、引き渡しを受けた時点で、有形固定資産の勘定に振り替える。
- ウ 生物とは、農業用の減価償却資産である生物をいう。具体例としてはミカン、カキ、茶などがあげられる。
- エ 生物を育成し育成費用を払った場合の借方の勘定科目は、肥料費勘定や飼料費勘定などに記帳しておく。
- オ 決算時、生物について育成費用の計算を行った際の仕訳は、借方「育成仮勘定」、貸方「生物」となる。

【選択肢】

1. アエ 2. イウ 3. イオ 4. ウオ 5. エオ

問題 13

次の所有権移転外ファイナンス・リース取引に関する資料に基づいて、借手におけるリース債務の返済スケジュール表のうち①～④の金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。なお、計算上生じる端数は円未満を四捨五入し、過不足は最終年度の利息で調整すること。(決算年1回、決算日3月31日)

1. 所有権移転条項：なし
2. 解約不能のリース期間：5年
3. リース取引開始日：X1年4月1日
4. リース料：月額3,000円（各年度末に1年分を現金で支払う） 総額180,000円
5. 貸手の購入価額：153,000円（借手においても明らかである）
6. 貸手の計算利率：5.674%（借手においても明らかである）
7. リース物件（備品）の経済的耐用年数：6年

リース債務の返済スケジュール

(単位：円)

支払日	期首元本	支払額			期末元本
		元本償還額	利息相当額	合計額	
X2年3月31日	(①)	()	()	()	(②)
X3年3月31日	()	()	()	()	(③)
X4年3月31日	()	()	()	()	()
X5年3月31日	()	()	()	()	(④)
X6年3月31日	()	()	()	()	—
合計	—	()	()	()	—

【選択肢】

- | | | | | |
|----|-----------|-----------|-----------|----------|
| 1. | ① 153,000 | ② 125,681 | ③ 96,812 | ④ 34,067 |
| 2. | ① 153,000 | ② 125,681 | ③ 96,812 | ④ 34,076 |
| 3. | ① 153,000 | ② 125,681 | ③ 96,812 | ④ 66,812 |
| 4. | ① 153,000 | ② 126,581 | ③ 96,821 | ④ 66,812 |
| 5. | ① 180,000 | ② 154,213 | ③ 126,963 | ④ 67,737 |

問題 14

次の取引に関する仕訳につき、空欄①～③に入る科目名または金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

当期6月30日に搾乳牛を150,000円で売却し、現金を受け取った。なお、当該搾乳牛の取得価額は300,000円、期首時点における減価償却累計額は、162,500円である。減価償却費は耐用年数4年の定額法（償却率：0.250）、記帳方法は直接法とする。（決算年1回 3月31日）

(借)	現	金	150,000	(貸)	(①)	150,000	
	減	価	償	却	費	(②)	
	生	物	売	却	原	価	(③)
					生	物	137,500

【選択肢】

1. ① 生物売却益 ② 18,750 ③ 118,750
2. ① 生物売却益 ② 37,500 ③ 100,000
3. ① 生物売却収入 ② 75,000 ③ 62,500
4. ① 生物売却収入 ② 37,500 ③ 100,000
5. ① 生物売却収入 ② 18,750 ③ 118,750

問題 15

下記の記述のうち、誤っている記述の組み合わせを一つ選びなさい。

- ① 剰余金の配当等とは、株主総会の決議により、繰越利益剰余金勘定へ振り替えた獲得利益等（剰余金）を配当その他に処分することをいう。
- ② 法人は、事業活動を行ううえでさまざまな税金を納付するが、法人が獲得した利益に基づいて課税される税金として、法人税、住民税、事業税などがあり、これらを総称して法人税等とよばれる。
- ③ 当期の費用となる原因（収益獲得のために役立った事実）があるにもかかわらず、その支払いなどが次期以降になる場合がある。この場合、当期に原因がある以上、当期の費用として計上しなければ正しい経営成績が計算できない。そこで、その金額を過去の経験などに基づいて合理的に見積もった額により費用計上する。この場合の費用計上に対する貸方項目を引当金という。
- ④ 農業経営基盤強化準備金は、租税特別措置法上の準備金である。税務上、青色申告をする認定農業者等が経営所得安定対策などの交付金を受領して農業経営基盤強化準備金として積み立てた場合、その交付金の額などを基礎として計算した積立限度額以下の金額を総収入金額（個人）または益金（法人）に算入する。
- ⑤ 圧縮記帳とは、国庫補助金等で取得等した固定資産の帳簿価額を、国庫補助金等の範囲内で一定の額まで圧縮して記帳する方法であり、免税制度である。

【選択肢】

- 1. ①、④
- 2. ②、⑤
- 3. ③、④
- 4. ③、⑤
- 5. ④、⑤

問題 16

Z 農事組合法人（決算年1回 12月31日）は、X2年度の決算について、X3年2月23日の総会の決議により [資料] のとおり剰余金の処分が承認された。[資料] に基づき、剰余金の処分に係る正しい仕訳の番号を、[仕訳] から一つ選びなさい。

[資料]

Z 農事組合法人

剰 余 金 処 分 案			
	自 X2年 1月 1日		
	至 X2年 12月 31日		(単位：円)
I 当期末処分剰余金			
当期剰余金	13,202,000		
前期繰越剰余金	200,000		
			13,402,000
II 剰余金処分額			
利益準備金	1,500,000		
任意積立金			
農業経営基盤強化準備金	2,550,900		
		2,550,900	
配当金			
事業分量配当金	330,000		
従事分量配当金	5,225,000		
		5,555,000	9,605,900
III 次期繰越剰余金			3,796,100

【選択肢】

[仕訳]

- | | | | | | | |
|----|-----|----------|------------|-----|-------------|-----------|
| 1. | (借) | 当期末処分剰余金 | 13,402,000 | (貸) | 利益準備金 | 1,500,000 |
| | | | | | 農業経営基盤強化準備金 | 2,550,900 |
| | | | | | 未払配当金 | 5,555,000 |
| | | | | | 次期繰越剰余金 | 3,796,100 |
| | | | | | | |
| 2. | (借) | 当期末処分剰余金 | 13,202,000 | (貸) | 利益準備金 | 1,500,000 |
| | | | | | 農業経営基盤強化準備金 | 2,550,900 |
| | | | | | 未払配当金 | 5,555,000 |
| | | | | | 次期繰越剰余金 | 3,596,100 |

3.	(借)	当期末処分剰余金	9,605,900	(貸)	利益準備金	1,500,000
					農業経営基盤強化準備金	2,550,900
					未払配当金	5,555,000
4.	(借)	繰越利益剰余金	9,605,900	(貸)	利益準備金	1,500,000
					農業経営基盤強化準備金	2,550,900
					未払配当金	5,555,000
5.	(借)	繰越利益剰余金	9,605,900	(貸)	利益準備金	1,500,000
					農業経営基盤強化準備金戻入	2,550,900
					未払配当金	5,555,000

問題 17

次の取引における仕訳の①～③にあてはまる勘定科目の組み合わせとして正しいものの番号を一つ選びなさい。

1. X1 期中に収入保険に加入することとし、保険料 52,000 円、積立金 113,000 円、合計 165,000 円について普通預金から支払った。

(借)	共 済 掛 金	52,000	(貸)	普 通 預 金	165,000
	(①)	113,000			

2. X1 期の決算において、上記 1. で計上した共済掛金につき、前払費用勘定に振り替えた。

(借)	前 払 費 用	52,000	(貸)	共 済 掛 金	52,000
-----	---------	--------	-----	---------	--------

3. X2 期の期首において、上記 2. に関する再振替仕訳を行った。

(借)	共 済 掛 金	52,000	(貸)	前 払 費 用	52,000
-----	---------	--------	-----	---------	--------

4. X2 期につき、基準収入に対して 30%の減収となった。そこで、収入保険の保険金等の受領見込額を見積計算したところ、その額は 787,000 円（内訳：収入保険の保険金 450,000 円、国庫補助相当分の特約補填金 337,000 円）となった。

(借)	未 決 算	787,000	(貸)	(②)	787,000
-----	-------	---------	-----	-------	---------

5. 収入保険の保険金等の請求手続を行った。

(借)	(③)	787,000	(貸)	未 決 算	787,000
-----	-------	---------	-----	-------	---------

6. 上記 5. で請求した収入保険につき、保険金等 787,000 円（内訳：収入保険の保険金 450,000 円、国庫補助相当分の特約補填金 337,000 円）及び経営保険積立金の払戻金 113,000 円が普通預金口座に入金となった。

(借)	普 通 預 金	900,000	(貸)	(③)	787,000
				経 営 保 険 積 立 金	113,000

【選択肢】

- | | | | |
|----|----------|-----------|-------|
| 1. | ①支払保険料 | ②経営安定補填収入 | ③未収入金 |
| 2. | ①支払保険料 | ②収入保険補填収入 | ③仮受金 |
| 3. | ①経営保険積立金 | ②収入保険補填収入 | ③未収入金 |
| 4. | ①経営保険積立金 | ②収入保険補填収入 | ③仮受金 |
| 5. | ①経営保険積立金 | ②経営安定補填収入 | ③未収入金 |

問題 18～25

米と野菜を生産・販売するD株式会社のR2年1月1日からR2年12月31日までの会計期間に関する次の〔資料1〕及び〔資料2〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、原価計算制度は採用していない。

〔資料1〕 決算整理前残高試算表

D株式会社	R2年12月31日	(単位:円)
87,000	現金	
5,218,798	普通預金	
3,128,658	売掛金	
	貸倒引当金	35,000
231,168	原材料	
873,278	仕掛品	
1,644,800	仮払消費税等	
8,450,000	建物	
5,925,000	機械装置	
2,354,000	器具備品	
	減価償却累計額	4,669,112
3,380,000	土地	
	買掛金	1,981,798
	仮受消費税等	2,218,600
	農業経営基盤強化準備金	2,100,000
	資本金	3,000,000
	繰越利益剰余金	10,315,651
	稲作売上高	9,520,215
	野菜売上高	18,215,900
	価格補填収入	1,821,400
1,318,925	種苗費	
3,818,518	肥料費	
1,928,500	農薬費	
1,531,821	諸材料費	
5,755,848	賃金手当	
312,738	福利厚生費	
1,298,600	修繕費	
2,533,730	動力光熱費	
6,000,000	役員報酬	
429,605	事務通信費	
780,000	支払保険料	
	受取利息	311
	作付助成収入	3,123,000
57,000,987		57,000,987

〔資料2〕決算整理事項

(1) 棚卸資産の期末棚卸の状況は、以下のとおりである。棚卸資産の決算整理は、総額法による。

品目	数量	単価
肥料X	18袋	3,970円/袋
農薬Y	20本	2,822円/本
農薬Z	18本	5,120円/本

なお、期末における未収穫の野菜の評価額は、921,568円であった。

- (2) 将来の農用地等の取得に備えるため、当期に交付を受けた農業経営基盤強化準備金の対象となる補助金について、農業経営基盤強化準備金2,200,000円を計上する。
- (3) 今期において甲土地1,950,000円を取得したため(計上済)、同額の農業経営基盤強化準備金の金額を取り崩す。また、この甲土地について、直接減額方式により同額の圧縮損を計上する。
- (4) 種を209,500円で購入し代金を掛にしたが、未処理であった。なお、この取引について消費税の計算は考慮しない。
- (5) 支払保険料に計上した金額には、前払分56,000円が含まれている。
- (6) 以下の減価償却に関する情報をもとに、減価償却費を計上する。記帳方法は間接法によることとし、1円未満の端数は切り捨てる。器具備品は今期の3月1日に取得した。それ以外には今期中に新規取得および除却した固定資産はない。

【減価償却に関する資料】

固定資産	取得価額	耐用年数	償却方法	償却率	期首減価償却累計額	当期償却額	備考
建物	8,450,000円	15年	定額法	0.067	3,963,050円		管理に関する費用
機械装置	5,925,000円	7年	定率法	0.286	706,062円		製造に関する費用
器具備品	2,354,000円	10年	定率法	0.200	0円		製造に関する費用
合計	16,729,000円	—	—	—	4,669,112円	(ア)	—

- (7) 期末における貸倒れ見積額46,000円を貸倒引当金として計上する。記帳方法は、差額補充法による。
- (8) 決算において、消費税の納付税額が、573,800円と確定した。
- (9) 決算において、法人税等の年税額が、548,500円と確定した。

問題 18

上掲【減価償却に関する資料】の空欄（ア）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 2,373,632 2. 2,411,866 3. 2,451,099 4. 2,529,566 5. 2,653,033

損益計算書

D株式会社		自R2年1月1日 至R2年12月31日		(単位：円)
I	売上高			
	1. 稲作売上高	9,520,215		
	2. 野菜売上高	18,215,900		
	3. 価格補填収入	1,821,400		29,557,515
II	売上原価			
	当期製品製造原価			(イ)
	売上総利益			()
III	販売費及び一般管理費			
	1. 役員報酬	6,000,000		
	2. 事務通信費	()		
	3. 減価償却費	()		
	4. 支払保険料	(ウ)		
	5. 貸倒引当金繰入額	(エ)		()
	営業利益			()
IV	営業外利益			
	1. 受取利息	311		
	2. 作付助成収入	3,123,000		()
	経常利益			()
V	特別利益			
	1. (オ)			(カ)
VI	特別損失			
	1. ()	1,950,000		
	2. (キ)	(ク)		()
	税引前当期純利益			()
	法人税等			()
	当期純利益			()

問題 19 上掲の損益計算書の空欄（イ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 20,346,447 2. 20,499,597 3. 20,555,947 4. 20,604,237 5. 21,122,099

問題 20 上掲の損益計算書の空欄（ウ）と（エ）を計算し、正しい金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | | |
|----|-----|---------|-----|--------|
| 1. | （ウ） | 724,000 | （エ） | 11,000 |
| 2. | （ウ） | 836,000 | （エ） | 11,000 |
| 3. | （ウ） | 724,000 | （エ） | 46,000 |
| 4. | （ウ） | 780,000 | （エ） | 11,000 |
| 5. | （ウ） | 836,000 | （エ） | 46,000 |

問題 21 上掲の損益計算書の空欄（カ）と（ク）を計算し、（オ）～（ク）の正しい表示科目または金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | | | | | | |
|----|-----|----------------|-----|-----------|-----|----------------|-----|-----------|
| 1. | （オ） | 農業経営基盤強化準備金戻入額 | （カ） | 1,950,000 | （キ） | 固定資産圧縮損 | （ク） | 1,950,000 |
| 2. | （オ） | 農業経営基盤強化準備金 | （カ） | 2,100,000 | （キ） | 農業経営基盤強化準備金繰入額 | （ク） | 2,200,000 |
| 3. | （オ） | 農業経営基盤強化準備金 | （カ） | 1,950,000 | （キ） | 固定資産圧縮損 | （ク） | 2,200,000 |
| 4. | （オ） | 農業経営基盤強化準備金戻入額 | （カ） | 1,950,000 | （キ） | 土地 | （ク） | 2,200,000 |
| 5. | （オ） | 農業経営基盤強化準備金戻入額 | （カ） | 1,950,000 | （キ） | 農業経営基盤強化準備金繰入額 | （ク） | 2,200,000 |

貸借対照表

D株式会社

R2年12月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
I 流動資産		I 流動負債	
1. 現金預金	()	1. 買掛金	()
2. 売掛金	()	2. 未払法人税等	()
3. ()	△ ()	3. (セ)	()
4. (ケ)	(コ)	流動負債合計	()
5. (サ)	(シ)		
6. ()	()	II 固定負債	
流動資産合計	()	1. 農業経営基盤強化準備金	(ソ)
		固定負債合計	()
II 固定資産		負債合計	()
1. 建物	()		
2. 機械装置	()	純資産の部	
3. 器具備品	()	I 株主資本	
4. 減価償却累計額	△ ()	1. 資本金	3,000,000
5. 土地	()	2. 利益剰余金	
固定資産合計	(ス)	その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	(タ)
		利益剰余金合計	()
		純資産合計	()
資産合計	()	負債・純資産合計	()

問題 22

上掲の貸借対照表の空欄(コ)と(シ)を計算し、(ケ)～(シ)の正しい表示科目または金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | | |
|----|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 1. | (ケ) 原材料 | (コ) 231,168 | (サ) 仕掛品 | (シ) 873,278 |
| 2. | (ケ) 期首材料棚卸高 | (コ) 231,168 | (サ) 期首仕掛品棚卸高 | (シ) 873,278 |
| 3. | (ケ) 期末材料棚卸高 | (コ) 220,060 | (サ) 期末仕掛品棚卸高 | (シ) 921,568 |
| 4. | (ケ) 原材料 | (コ) 220,060 | (サ) 材料費 | (シ) 921,568 |
| 5. | (ケ) 原材料 | (コ) 220,060 | (サ) 仕掛品 | (シ) 921,568 |

問題 23 上掲の貸借対照表の空欄（ ス ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 11,038,789 2. 11,078,022 3. 11,240,723 4. 11,388,789 5. 11,806,873

問題 24 上掲の貸借対照表の空欄（ ソ ）と（ タ ）の合計額を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 12,361,275 2. 13,971,715 3. 14,311,275 4. 14,611,275 5. 16,261,275

問題 25 ①今期のD株式会社の消費税に関する決算修正仕訳と②上掲の貸借対照表の空欄（ セ ）の表示科目の組み合わせとして正しいものの番号を、一つ選びなさい。

① 決算修正仕訳

(1)

(借)	租 税 公 課	573,800	(貸)	未払消費税等	573,800
-----	---------	---------	-----	--------	---------

(2)

(借)	仮受消費税等	2,218,600	(貸)	仮払消費税等	1,644,800
			(貸)	未払消費税等	573,800

(3)

(借)	仮払消費税等	1,644,800	(貸)	仮受消費税等	2,218,600
(借)	租 税 公 課	573,800			

【選択肢】

	①決算修正仕訳	②（ セ ）
1.	(1)	租税公課
2.	(1)	未払消費税等
3.	(2)	仮払消費税等
4.	(2)	未払消費税等
5.	(3)	仮受消費税等